

## 先進政策大賞

### 魚のゆりかご水田プロジェクト 湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻そう

滋賀県農政水産部農村振興課にぎわう農村推進室

#### 琵琶湖辺域の水田の現状

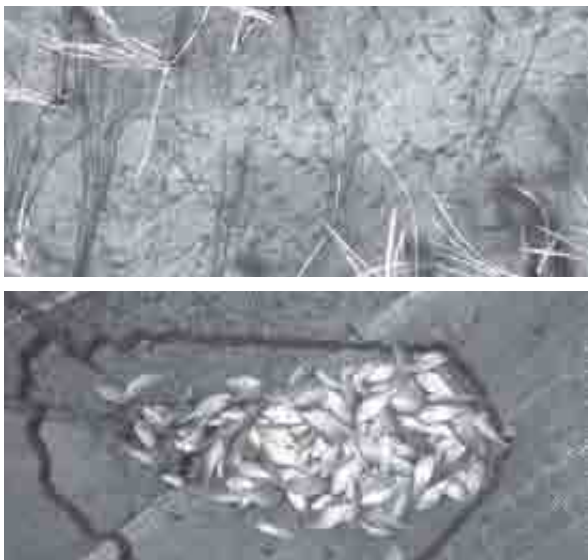
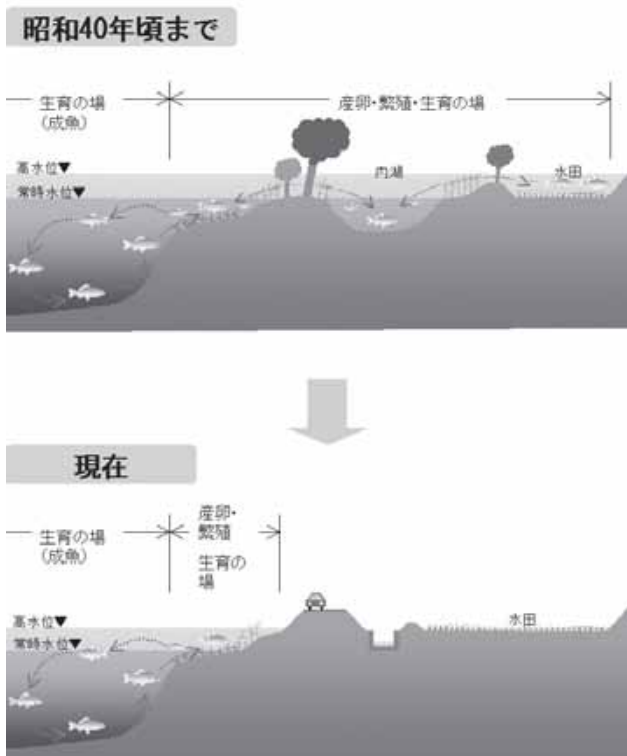
かつて琵琶湖周辺の田んぼは、コイ、フナ、ナマズなど湖魚の格好の産卵成育の場となっていました。同時にそこは、田舟などによる農作業を余儀なくされたり、琵琶湖の水位変動の影響を受け易く浸水被害に見舞われるなど、農業活動においては非常に不利な地域でした。このため、昭和四十年代から、治水・利水対策として、湖岸堤防の整備や、琵琶湖水位の操作が行われるとともに、農業の生産性向上や食糧増産を目的とした、農地整備が進められ、琵琶湖周辺地域における人の生活に安心・安定を

もたらすことができませんでした。

しかし一方では、琵琶湖と水田間の魚類移動経路や、移動機会の減少につながり、今日では水田地帯で見られる魚類の減少が少なくなってきました。(図1)

図1

#### 琵琶湖辺の水田環境の変遷



#### ○水田は『魚のゆりかご』

田植え後の水田にニゴロブナの親魚を放流し産卵させ、中干しまでの稚魚の成育状況を調査したところ、水田は水深が浅く、産卵行動とふ化に適した水温に保たれる上、ブラックバスなどの外敵が少ないため、稚魚の生残率(稚魚数/産卵数)は、高い水田では約六〇%、平均でも約三〇%と琵琶湖沿岸のヨシ帯よりも高いことが分かりました。

また、稚魚のエサとなるプランクトンが豊富で成長面にも優れ、ふ化後約一カ月で遊泳力が備わる全長二cmに達することが確認され、まさに水田は稚魚たちを育む『ゆりかご』であることを認識しました。



○『魚のゆりかご水田プロジェクト』

ほ場整備前の水田が「魚のゆりかご」として役割を担っていたのは、琵琶湖の増水時に水面と田面がほとんど落差なくつながり、魚類が容易に往き来できたことによると思われます。そこで、平成十六年度から、排水路の水位を階段状に堰上げ、水田の水面と同水位にする「排水路堰上げ式水田魚道」を設置した結果、フナ、コイ、ナマズ、タモロコ等多数の湖魚が、降雨のたびに産卵のため水田に遡上し、大きく育った多数の稚魚が琵琶湖に帰っていくことを確認できました。



この成果を受けて、平成十八年度に、全国に先駆け「魚のゆりかご水田環境直接費払いパイロット事業」を創設しました。

制度は「魚のゆりかご水田」として形成された水田を効果発生対象区域とし、魚のゆりかご水田の環境維持活動に取り組んだ活動組織に対し、面積に応じて環境直接支払い（十a当たり三千五百円）を行うものであり、この結果、琵琶湖周辺の十二集落で農家を中心とした地域活動組織が間伐材を用いて魚道を設置され約四十haの水田が魚にとっての産卵成育の場として復元され、中干し時には推定八十三万尾の稚魚が排水路へ流下しました。

各地域では、稚魚の流下する様子を見て「水田と琵琶湖との強いつながりを再認識させられた」という声が聞かれるとともに、小学生によ

る環境学習会が開かれ、食料生産と魚を始めとした生き物の生息地としての水田の価値を学習する貴重な場を提供することもできました。





また、取り組む農家からは、「田んぼに行くのが楽しみになった」や、「田んぼに子どもが来てくれるようになった」などの声が聞かれ、農村地域の活性化という点でも大きな効果を得ることができました。

平成十九年度からは、世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策（滋賀らしい農地・水・環境保全向上対策）の中で取り組まれ、平成二十一年度には約百十一haで取り組まれるなど、飛躍的に拡がっています。（図2）

### ○魚のゆりかご水田米

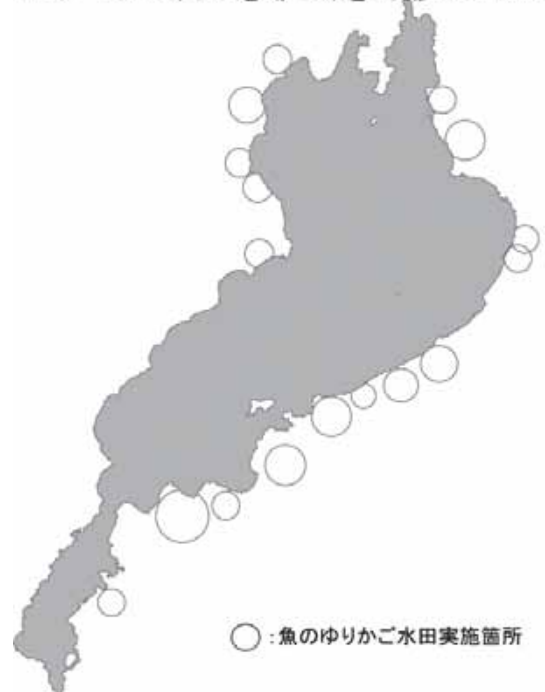
「魚のゆりかご水田プロジェクト」に取り組んだ地域では、「環境こだわり農産物」とも組み合わせ、「琵琶湖や多くの生き物と共存する米づくり」を、直接、消費者に評価してもらおう」という声が多く上がりました。

このため、県では、稚魚の成育等に配慮して栽培されたお米を『魚のゆりかご水田米』とし平成十八年七月に商標登録、平成二十一年二月には一般消費者へのイメージアップを図るため、ロゴマークを商標登録し、「魚のゆりかご水田米」のブランド化を図ることで、継続して取り組まれるプロジェクトとなるよう、農家の方をバックアップしています。



図2

**H18~H21に、26地域で魚道が設置されました！**







また、魚のゆりかご水田を通じて、都市住民との交流を行い、地域の活性化を図ろうと『オーナー制度』に取り組む地域もあり、自分たちの手で村を盛り上げようという機運が高まってきました。

今後は、この機運をより高めていけるよう、行政主導ではなく、地域とともにプロジェクトを実施していきたいと考えています。

### ○農村に『にぎわい』を取り戻す魚のゆりかご水田

田んぼに魚たちが戻ると、鳥の群れが目につくようになりました。網をもって魚採りをする子どもたちの姿が戻りました。その光景を暖かい眼差しで見つめる農家や、お年寄りの姿が見られるようになりました。

このように、田んぼに生き物のにぎわいが戻ると、農村では世代をこえ、地域をこえた人々のにぎわいが戻ります。(図3)

今回、このような取組みや効果が評価され「先進政策大賞」に選ばれたことを受け、環境保全や生態系保全の面だけの取組みではなく、人と人とのつながりの再生といった面に更に注目し、より幅広い連携と協力の下、『魚のゆりかご水田』を普及推進し、生き物と、人々でにぎわう農村づくりを目指し、琵琶湖を抱える滋賀県より、水田の持つ多面的機能の重要性、必要性を発信していきたいと考えています。

図3



<http://www.pref.shiga.jp/g/noson/fish-cradle/>